



東大和二ツ池だより

第1号
(2023年3月)

発行 東大和市
市民環境部環境対策課
編集 認定NPO法人 生態工房

昔はどんな場所だった？二ツ池

～自然再生に向けた調査を進めています～



昔の二ツ池の地図。池が2つ！しかも大きい！ 大和町全図（1958年）に加筆

東大和市では、二ツ池公園を自然を保全しながら楽しむ場に再生していく構想を温めています。それにあたり、狭山田んぼがあった1960年代の自然環境を把握する目的で文献資料調査を行いました。狭山丘陵や東大和市域の資料から、かつて二ツ池周辺に生息していた動植物種を推測しようというものです。



「狭山丘陵の自然歴史を残す公園をここに設置する 昭和53年3月吉日」と記されています。

二ツ池と二ツ池公園

二ツ池公園は1978（昭和53）年に設置された東大和市湖畔地区にある公園です。江戸時代にはすでに池があったとされ、住宅地になるまでは狭山田んぼを潤すため池として利用していました。名前の通り2つの池がありました。現在は下の池が残っています。開園当時からある園名板の裏には

昔は…



絶滅危惧種になっているアカハライモリやホトケドジョウもかつては生息していた、子どもの遊び相手になっていたこともわかりました。

二ツ池周辺には今も狭山丘陵の自然が残されているので、環境が整えば周辺から移動してくる生きものもいるかもしれません。

二ツ池周辺にいるよ



オニヤンマ



今後、二ツ池や周辺地域で、かいぼりや自然再生に携わっていくボランティアも募集予定☆

園芸スイレンを除去しました

池を覆っている園芸スイレンとハゴロモモは、旺盛な繁殖力で他の水草の生育場所を奪ったり、増えすぎて茎葉が堆積して水質を悪化させたりするため、重点対策外来種に選定されています。池の生態系保全を目的として、2022年12月に水草の一部を除去しました。

合わせて、ヨシの一部も刈り取りました。在来種のヨシは水辺環境を構成する要素ですが、過密化して枯死しているものが目立ち、茎葉の堆積が進んでいました。適度に刈り取りをしながら、トンボなどの生きものの生息場所を保っていきます。

池底の状況を確認しました

2022年12月、水草除去作業のために二ツ池の水位を下げました。二ツ池の水を抜くことは滅多になく、立ち会った市職員にとっても初めてのことで、半分かいぼり状態になった池で、池底や護岸の状況を確認しました。

池の水位は水門で管理しています。普段使っていないと固着していた水門を頑張って開け、泥詰まりを解消すると、排水枡から水が勢いよく流れ出しました。

水位が下がると、池底には堆積した植物のほか、木の枝や空き缶、レンガなどがいっぱい。今後のかいぼりはやりがい十分です。



園芸スイレンと水中のハゴロモモ

重点対策外来種とは
環境省・農林水産省による「生態系被害防止外来種リスト」で、甚大な被害が予想されるため対策の必要性が高いとされている外来種。



抜き取った園芸スイレン



溝筋(水路)を掘って水門(右)へ排水

いきものノート

野の彩時記

PAGE1. ヒキガエルの産卵

早春の雨の後、池の中からクッククックという声が聞こえてきました。産卵に訪れたヒキガエルです。声のする方を探すと、水から顔だけ出していました。メスの背に抱きついているオスもいます。

産卵後は雑木林に戻って春眠につき、食物となる虫たちが動き始める頃に再び土から這い出します。



ちよろっと

T O P I C S

二ツ池の水の行方

二ツ池の水は、どこへつながっているのでしょうか？二ツ池は前川の水源のひとつです。池の水は水門から流れ出したところで暗渠に入り、住宅地の下を流れて狭山地区で地上に現れます。武蔵大和駅付近を東進し、東村山駅付近で北東に向きを変えます。北川と合流後、すぐに所沢市境で合流して柳瀬川となります。そこから先は、埼玉県志木市で新河岸川と合流して南東へ。東京都北区で隅田川と合流し、東京湾へ流入します。



暗渠から地上に現れた二ツ池の水(右)